

9 本県の学力向上施策

学力調査から、本県では「活用に関する問題」(B問題)について、全国よりやや劣る傾向にあり、依然として、思考力・判断力・表現力等に課題があることが分かった。併せて、各教科で上位層の割合が少ないことも分かった。

本県の学力を向上させるためには、平成29年3月に改訂された学習指導要領を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善が急務であり、教員個々人の指導力向上に加えて、校内研修等を活用し、学校全体の組織で取り組むことが重要です。

県教育委員会では、魅力ある授業の実現に資するよう、次のような取組を行っておりますので、各学校・教員は十分に活用していただきたい。

(1) 情報提供～魅力ある授業を行うための指針等～

ア 学びの羅針盤

授業づくりの共通の指針として作成された「学びの羅針盤」を県内の公立小・中学校の全教職員に配布している。

全教職員の間で共有を図るとともに校内研修等で活用することは効果的である。



イ かごしま学力向上支援Webシステム

本システムから、授業改善に役立つ資料をダウンロードすることができる。

○ ダウンロードできる主な教材等について

- ・ 評価問題 (思考力・判断力・表現力等を問う問題)
小5～中3 (国, 社, 算・数, 理), 中1～2 (外国語)
- ・ 学びの羅針盤
- ・ 各地区からの教育情報 (各地区作成の評価問題等)

【参考】

※ システム起動について

インターネット上で、本システムのウェブサイトのログイン画面から各学校に割り当てられたIDとパスワードを入力すると、本システムのトップ画面が表示される。

各学校においては、全ての教職員にIDとパスワードの情報を共有し、全ての教職員で活用していただきたい。



ウ 総合教育センターWebサイト

総合教育センターのWebサイトには、日々の授業で使える指導資料を約500本を掲載している。(Webサイト:<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/>)

また、センターでは、カリキュラムセンター機能の拡充にも取り組んでおり、来所者への研究・研修支援に関する指導助言を受けることができる。Webサイトに掲載している資料の外、多くの指導資料があり、来所した際には持ち帰ることができる。

エ 県教育委員会ホームページ

県教育委員会ホームページには、学びの羅針盤、鹿児島学習定着度調査の結果概要、各教育事務所からの情報の授業改善のポイントなど、教育に関する様々な資料等が掲載されている。

Webサイト:<https://www.pref.kagoshima.jp/kyoiku/>

(2) 実践的な授業改善の取組

ア 授業サポートプロジェクト

中学校において、国語又は数学に関する指導法充実を支援する拠点校や推進校を指定し、支援チーム（義務教育課、教育事務所、市町村教育委員会等の指導主事）による継続的な学校訪問（授業ガイダンス、授業参観等）を通して、授業づくりの支援や指導・助言を行っている。

成果として、教師が一方向的に教える授業から、生徒自ら考え、解決していく授業が見られる機会が多くなった。また、サポート対象教諭のみならず、教科部がまとまってサポートを受け、該当校の教職員が一体となって授業改善に取り組んだりする方が授業改善に効果的であるということが明らかになってきた。

※ 指定している拠点校や推進校で実施されている授業については、当該校との連絡・調整により、他の小・中学校からも参加することができる。

イ コアティーチャーによるモデル授業

教育事務所ごとに小・中学校の教員によるコアティーチャープロジェクトチームを設置し、モデル授業づくり（評価問題に関連した具体的な授業モデル）に取り組んでいる。

※ その成果は、後述する「オープンサポートフォーラム」や「かごしま学力向上支援Webシステム」により還元されている。

ウ 授業公開・各教育事務所の学校訪問等

中学校に対しては、3年に1回の授業公開を要請している。また、各教育事務所においては定期的に学校訪問を実施して、授業改善等の指導助言をしている。

(3) 研修の充実

ア オープンサポートフォーラム

教育事務所ごとにコアティーチャーネットワークプロジェクトのメンバーや授業サポートプロジェクトに関わる教員を含め、多くの教員が参加できる地区の教科別研究会を開催している。

イ 総合教育センターの研修及び土曜講座

総合教育センターにおいては、短期研修講座を、本年度移動講座61講座を含め、全135講座を実施している。また、土曜日における研修を希望する教職員のニーズに応えるために、希望研修である土曜講座も実施している。

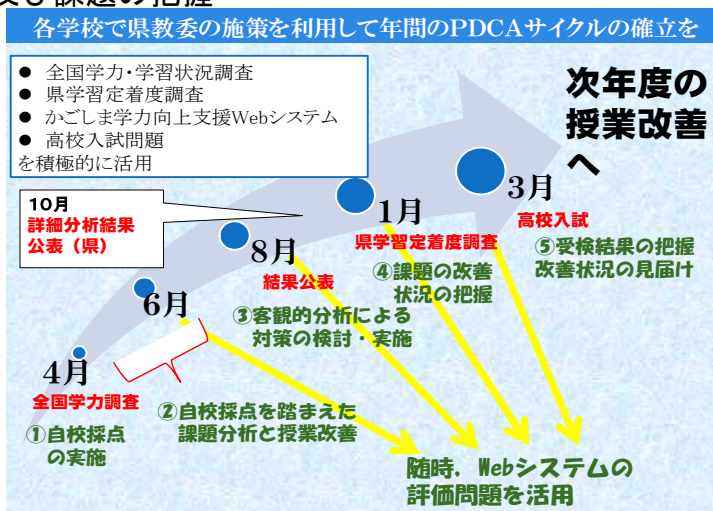
※ Webサイトから研修の実施日や内容等を確認することができる。

ウ 教職員の研修の手引

県教委は、日々の研究と修養に努めなければならない教師の実践的研修の手引書として、学校教育全般について編集したものを作成し、初任者に配布している。

(4) 児童生徒の学習状況の見取り及び課題の把握

各学校では、次の図のような自校の学力向上に係るPDCAサイクルを確立していただきたい。その際、自校の学力の実態及び課題を把握し、その対応策、年間を通じた学力向上の取組の流れを全教職員で共有するとともに、定着が不十分な問題への補充指導を行い、確実な定着を見届ける授業改善の取組を実施していくことが大事である。



PDCAサイクルの確立に当たっては、「かがしあ学力向上支援Webシステム」や「学びの羅針盤」、「授業サポートプロジェクト」等の県教委の学力向上策を自校のPDCAサイクルに積極的に組み入れていただきたい。

ア 全国学力・学習状況調査

(7) 全国学力・学習状況調査結果を踏まえた分析資料の作成及び配布

各学校においては、以下の点を確認しつつ、PDCAサイクルに基づき、自校の取組の検証改善に役立てていただきたい。

- ・ 全教職員で、問題を解いていますか。
- ・ 児童生徒の学力や学習状況調査を把握・分析していますか。
- ・ 平成29年8月に配布された報告書等活用していますか。
- ・ 県教委・市町村教委が作成する分析資料を活用していますか。
- ・ 学校全体として、具体的な改善策を検討していますか。

(4) 全国学力・学習状況調査「学年・領域ごと」整理表

平成25年度から今年度までの調査問題を、単元ごとに一覧表に整理しました。単元ごとに、調査問題を配列したことで、単元末の確認テストや定期テスト等で容易に活用することができます。さらには、この一覧表を基に、各教科の指導計画に位置付けることでその効果はさらに大きくなります。

今までの調査問題を積極的に活用し、児童生徒の学力の定着を図っていただきたい。

イ 鹿児島学習定着度調査

児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、課題解決に取り組むとともに、一貫した指導と学力向上のP D C Aサイクルを充実させることにより、児童生徒の学力の向上を図るため、実施している。

実施日	平成30年1月17日, 18日 (学習状況調査は1月17日~19日の間)
対象学年	小学校第5学年, 中学校第1, 2学年
対象教科	小学校(国語, 社会, 算数, 理科) 中学校(国語, 社会, 数学, 理科, 英語) ※ 学習状況調査(児童生徒質問紙)

ウ かがしま学力向上支援W e bシステム(重点課題への取組)

全国学力・学習状況調査について、各学校でアの項で記載した点を参考にしつつ、自校の取組について検証改善に役立ててほしい。

□ 県教育委員会では、児童生徒の確かな学力の向上を図るため、授業サポートプロジェクトやかがしま学力向上支援W e bシステムの活用、コアティーチャーネットワークプロジェクト等を推進している。

先生方には、基礎・基本を定着させつつ、児童生徒が自ら考え、主体的・対話的な授業が展開されることを望んでいる。こうした取組が県内全域で行われることが大事であり、児童生徒を支えていく強い思いを共有したい。県の教育課題を解決するには学校現場と各市町村、県がこれまで以上に連携を強化していくことが不可欠である。

鹿児島県教育庁義務教育課フェイスブックURL
<https://www.facebook.com/gimukyoku.kagoshima>

